

ときめき インタビュー



森田 真央
(もりた まお/Mao Morita)

…プロフィール…

平成6年8月19日越谷市生まれの21歳。帝京大学・文学部3年生で現在は東京都練馬区在住。杉並かるた会所属、全日本かるた協会A級六段。小学2年生のとき、百人一首に出会ったことをきっかけに「競技かるた」をはじめ、中学1年生でA級に昇進。昨年10月に開催された「第59期クイーン位戦・東日本予選」で準優勝。来月行われる今年のクイーン位戦では、東日本はもちろん全国優勝も狙っている。

子どもからシニアまで、約100万人の競技者がいるという「競技かるた」。最近ではこの競技を描いたマンガ『ちはやぶる』が人気となり、国内のみならず海外でも競技かるたを楽しむ人が増えています。いま注目の競技で女性トップを目指す期待の選手・森田真央さんにお話を伺いました。

★ 競技を始めるきっかけは「夏休みの宿題」

21歳になったばかりの森田さんですが、すでに競技かるた選手のキャリアは13年近く。始めるきっかけとなったのは、夏休みの宿題だったと言います。

「小学2年生のとき、クラス全員で百人一首を全部暗記する」という夏休みの宿題が出たんです。暗記するために、みんなでかるた遊びをやるようになったのですが、その楽しさにすっかりハマってしまいました」と森田さん。

その後、夏休みが終わっても学校でのかかるた遊びは続き、森田さ

んは小学校の中で一番強く、負けたことがなかったのだそうです。そんな強さもあって3年生のとき、かるたの全国小学生大会に出場。

「結果は小学4年生の対戦相手に逆転負け。それが私の初めての負けでした。とにかく悔しくて、本格的に競技かるたをやろう!と決心して、当時住んでいた宇都宮市のかかるた会に入りました」という森田さん。会での練習は週に1回でしたが、一緒に競技かるたを始めた一歳下の妹さんを相手に、毎日家でかるたの試合をしていたそうです。



小学4年生の時の森田さん。数々の競技かるた大会で賞を受賞

★ 高くてキツかった「A級」の壁

競技かるたの階級は、初心者の「E級」から、四段以上の人と与えられる最上級「A級」まで。森田さんは小学3年のスタートから約2年、5年生で「B級」を獲得。しかしそこから「A級」に上がるのがとても大変だったと言います。「A級になるには、公式の大会

で優勝1回、あるいは準優勝2回が条件なので、とにかくたくさん大会に出ました。でもいつも4位入賞止まりで準決勝まで進めない状態が続いて、気持的にもキツく、かるたを全然楽しめなくなっていました」と森田さん。



「小学生から80代の方まで年代問わずできるのが、競技かるたの魅力。挨拶などのマナーも身に付くので、人間的にも成長できると思います」

★ キレイな取りがモットー エネルギ源はミニトマト

競技かるたは読み手が上の句を詠み、選手が下の句が書かれた札を取る競技ですが、札を取るスピードはとても速く、近くで見てもどちらの選手が取っているのか判断がつかないほど。

「選手同士でもどちらが取ったか分かり難いこともあります。札の取り方としてへ札を押し出して

去年の失敗に学び、今年本気で「クイーン」を狙います!

はこれまでに数回出場し、2度準優勝しています。

「去年の決勝は、対戦相手の坪田翼選手の強さに圧倒させられ、試合の主導権を握ることができませんでした。実力の差を感じましたし、クイーンになりたいという意気込みでも負けてしまった。今年はその試合の教訓を生かして、心身ともにベストコンディションで臨みたいですよ」と森田さん。

指導する横矢会長も「真央ちゃんはいつも気負わず冷静でキレイなかるたをする選手。練習も真面目だし、実力もある。ぜひ今年は3度目の正直を叶えてほしい」とエールを送ります。

★ 将来は「競技かるた部」を指導する国語教師に

森田さんは2歳で越谷から転居しましたが、祖父母が住む越谷には休みのたびに訪れており、今年の春は市内でいちご狩りを楽しんだとのこと。その越谷の祖父母のつながりから、昨年12月には越谷市内の幼稚園で行われた百人一首大会の講師を務めました。かるた講師同様、人に教える」ということは森田さんの将来の目標でもあり、「大学卒業後は競技かるた選手を続けながら中学校が高校の国語教師になっ



杉並かるた会のメンバー(会員総数は約130人)。前列中央・森田さんの左隣が、横矢美恵子会長



競技かるた選手

もりた まお 森田 真央 さん

昨年12月、越谷市内の幼稚園で行われた百人一首大会での模範かるたの様子。森田さん(右)のスピードに園児たちも注目。

《競技かるた》とは

1対1で行われ、百人一首の下の句が書かれた100枚の札から各自「持ち札」として25枚を選んでそれぞれ自分の陣地に並べ、合計50枚で競う。読み手が上の句を詠み、それに合う下の句の札を取ったほうが「取り」を決めたことになり、敵陣の札を取った場合は、自分の陣地の札1枚を敵陣に渡していく。最終的に自分の陣地の札が先に無くなった方が勝ち。1試合の所要時間は1~2時間程度。

*「クイーン位戦」は毎年秋に東日本予選と西日本予選が行われ、さらにそれぞれの優勝者が戦って勝った統一勝者が前年のクイーンに挑戦する。そこでの勝者がクイーンの称号を得る

て、学校の競技かるた部を指導できればと思っています」とのこと。教員免許を取る勉強もおろそか

にはできませんが、とにかく今は「クイーン」に向かって集中したいという森田さん。来たる10月18

日に行われる「クイーン位戦・東日本予選」に、市民のみならずぜひ注目ください。

